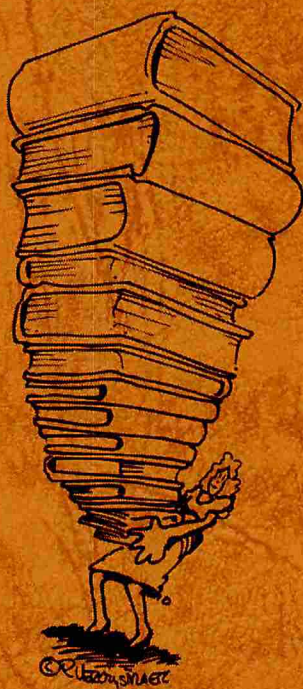


2007年度 広報史研究会 報告書

日本の広報・PR史研究

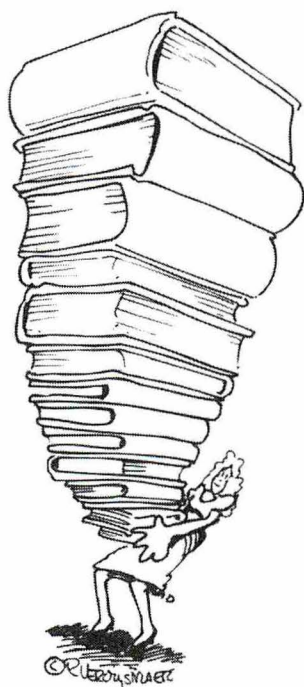


日本広報学会 広報史研究会

2008年6月

2007年度 広報史研究会 報告書

日本の広報・PR史研究



日本広報学会 広報史研究会

2008年6月

はしがき

猪狩 誠也
広報史研究会 主査

日本広報学会理事会の指定によって平成 18 年度「指定研究」として本研究会が発足してから 2 年を経過し、3 年目に入っている。最初に研究会員を募集したところ 25 名の学会メンバーが参加、最初の 1 年間は月 1 回の研究会は間違いなく守られた。

18 年度は、研究会だけで 10 回、それぞれが自分の興味のあるテーマについて発表し、互いに意見を交換し合うという形で進められた。それ以外に、初期の日本の PR 会社の創業者、コスモ・ピーアール PR の松田妙子さん、知性アイデアセンターの小石原昭さん、電通、電通 PR センター、博報堂 PR 部、国際 PR などの OB・OG の皆さん、50 年代に PR 会社をつくった方のご遺族、それ以外にも企業広報の OB たちへの聞き書き、回顧座談会など 10 数回に及んだ。こうした広報の先達たちが日本の広報をつくってきたことをつくづく感じたのである。

2 年目の 19 年に入り、メンバーの一人が吉田秀雄記念財団の研究助成に応募することを提案、それが通って助成を受けることになった。歴史としての一貫性を持たせたかったことなどから、メンバーの中から、次の 6 人が執筆にあたることにした。戦前、日本初の広報部門を持った満鉄および満州国の弘報を小川真理生、戦前の広報・研究活動等を猪狩誠也、戦後の PR 導入にあずかって力のあった電通を中心に北野邦彦、行政広報を濱田逸郎、そして企業広報を剣持隆、これまでほとんど手つかずであった PR 業の歴史を森戸規雄が担当し、一年間の全員の成果に助けられながら、『日本の広報・PR 史の基礎的研究』を 20 年 3 月 10 日に吉田記念財団に提出した。

そうしたことから、2 年目の研究会はややペースは落ちたが、研究会は続けられた。それというのも、オズマ・ピーアールの柳勲社長が青山表参道の同社の会議室を第 1 回から 2 年間ずっと無料で貸していただき、さらには森重ひとみさんというたいへん気配りのある女性社員の方を世話役として付けてくださった。もちろん、オズマ・ピーアールのこれまでの経験、さらには松田さん、小石原さんをご紹介いただくだけでなく、インタビューにまで同席いただいた。柳さん、森重さんに心からお礼を申し上げたい。

そして 2 年間にわたって研究を続けてきた会員諸氏の論文・エッセイも合わせた報告書をここに刊行する運びになった。

この共同研究について自己評価も含めて一言付け加えておきたい。満鉄本体についてはこれまでもかなり研究は進められてきたが、小川が行った満鉄・満州国の弘報については、これまでなかった資料も見つけ、こんにちの日本の広報にもかなりの影響も与えていることが分かったように思っている。また戦後もっとも早くパブリック・リレーションズに注目したのは電通だったことは認識されていたが、その動きも北野邦彦の研究で新事実の発見もあり、明確になってきたように思う。もうひとつは、これまでほとんどなされていなかったのが PR 産業の歴史だったが、ここに初めて森戸が取り組んだのである。とくに聞き書きが多かったのがこの分野であった。

これまで 2 年間研究を進めてきて感じるのは、まだまだ歴史としての完成にはほど遠いということである。本報告書では読む人も限られざるをえない。広く広報に関係ある人びとに読んでいただき、さらに歴史の証言を集めるためにも、単行本として出版できればと考え、もう 1 年間の

研究期間を研究会運営委員会に申請したところ、さいわいにも認可を得ることができた。

この報告書を読んで、これは広報史の上に欠かせないといった事実をお持ちの方、その出版の一翼を担いたいという方は今からでもぜひご参加いただきたい。

目次

はしがき	1
目次	3

■論文編■

1. 広報／パブリック・リレーションズ史研究序説	猪狩 誠也	7
2. 「広報」は戦前に始まる	小川 真理生	12
第1章 陣痛期—いわゆる広報外交について		
第2章 誕生—「弘報」の夜明けは満鉄から		
第3章 満州国の広報体制		
第4章 国際広報—満鉄に紐事務所あり		
3. 日本型広報の始動	猪狩 誠也	31
4. 広告会社に於けるPR関連部門の歴史的展開	北野 邦彦	37
第1章 第二次大戦終了当時の電通		
第2章 上田碩三と「渉外」		
第3章 田中寛次郎と「PRの導入」		
第4章 小谷重一と「PR普及のための教育」		
第5章 吉田秀雄と「プリサ (PRISA)」		
第6章 ドン・ブラウンと「広報講習会」		
第7章 満州帰りの人々と「弘報」		
第8章 開発局PR部、次いでPR局の発足		
第9章 小谷正一と「イベントPR」		
第10章 広報室、営業企画室、CI室、CC局の設立		
第11章 電通自体の広報		
第12章 博報堂の広報・PR史		
5. 行政広報史	濱田 逸郎	85
第1章 行政広報の領域		
第2章 近代的広報の導入とGHQ		
第3章 行政広報の揺籃期		
第4章 政府広報の成立過程		
第5章 行政広報の発展		
第6章 国と自治体の相互関係		
6. 戦後企業広報史	剣持 隆	125
第1章 戦後日本への広報の導入		
第2章 マーケティング型広報の時代—1960年代を中心に—		
第3章 企業批判期の広報—1970年代を中心に—		
第4章 広報の変革期—1980年代を中心に—		

7. 戦後日本における企業広報の変容	三島 万理	201
第1章 ビジネス誌にみる「企業広報」概念		
第2章 『企業環境』の時代区分と志岐晃才の理論的背景		
第3章 企業広報関連論文の内容分析		
結 論 企業広報の今日的課題		
8. 経済広報センターの歩みと役割	佐桑 徹	212
9. 「戦後不祥事史」研究ノート	村上 信夫	224
第1章 戦後不祥事史（概論）		
第2章 不祥事多発の1990年代前半、何が起こったかのか？		
第3章 不祥事行為の「悪質さ」の変遷		
第4章 不祥事報道の報道量研究		
10. PR業界前半史〈1948～1979〉	森戸 規雄	248
第1章 本格的PR会社の誕生以前の状況		
第2章 本格的PR会社の誕生と時代背景		
第3章 草創期のPR会社、第一世代の特徴		
第4章 国際派各社の概要		
第5章 国内派各社の概要		
第6章 第二世代のPR会社群像		
第7章 二つの協会とその統一まで		
11. 対談／1980年代以降のPR業界	長江 豊×森戸 規雄	298
12. PR業界50年の歴史—その仮説的考察—	大森 康晴	303

■証言編■

1. 広報覗き見抄	寺門 克	315
2. 現代広報の先達	島谷 泰彦	320
3. 私の広報史	八木 誠	325
4. 外資系PR会社の内側	三瓶 博俊	336
5. 日本PR協会の社団法人化について	辻田 邦彦	348
6. 学会そもそも話	黒水 恒男	350

■資料編■

「社会環境&経営環境と広報」年表		
・ ・ ・ ・ ・ 黒水 恒男×島谷 泰彦×左右田靖穂		355